

像が宙に浮かんで見える?!

凸レンズの実像実験器

1-115-250 つかんでごらん……………¥19,800 (¥20,790)

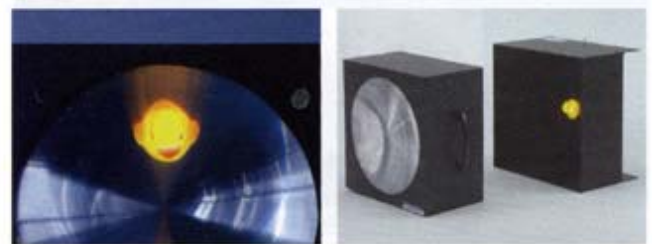
日本私学教育研究所 馬目秀夫先生ご指導

- 大型フレネルレンズを用い、実像と虚像を立体的に観察する光学実験器です。
- 大型レンズの採用により、まるで宙に浮かんでいるかのような立体的でリアルな実像を観察することができます。
- 装置を縦にすれば、複数人で同時に実像を観察することができます。また、レンズと物体の距離を自由に変えることができるので、大型光学台としての使用が可能です。
- この実験器を使うことで、実像とは実際に光が集まってできる像であること、光が目に入るとはじめてものが見えるということがよく理解できます。

本体	黒色ツヤ消プラスチック製	光源部	レンズ部
光源	アヒル人形 (豆電球内蔵)		
電源	単3電池×2 (付属) スイッチ付		
大きさ	300×300×280mm (実像観察時) 300×300×210mm (収納時)		



1-115-250 凸レンズの実像実験器 つかんでごらん



立体的なアヒルの実像が観察できます 光学台としても活用できます

※価格は、太字が希望小売価格、() 内のグレーの数字は消費税込みの価格です。

直径270mm 焦点距離 約200mmのフレネルレンズを使用

2枚重ねたときの焦点距離は約100mm

物体から像までの距離は約400mm、レンズ面から像までの距離200mm

なお、わたし(馬目)の装置では焦点距離110mmのフレネルレンズを2枚重ね、焦点距離を55mmとして使用、物体から像までの距離220mm、レンズ面から像までの距離110mm。ただし、このフレネルレンズは1枚1万円程度する。